

## 第1学年 生活科 学習構想案

菊池市立泗水西小学校 教諭 松尾美沙希

### 1. 単元名 きれいにさいてね（東京書籍）

#### 2. 単元の目標

- ・植物を継続的に栽培する活動を通して、植物は生命をもっていることや成長していることを理解する。  
(知識・技能)
- ・植物を継続的に栽培する活動を通して、植物の育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができる。  
(思考力・判断力・表現力)
- ・植物を継続的に栽培する活動を通して、生き物への親しみをもち、大切にする。  
(主体的に取り組む態度)

#### 3. 単元について

##### (1) 教材観

本単元では、「朝顔の栽培」を教材として取り上げる。

実際に、種から朝顔を栽培する活動を通して、植物への興味・関心を高めることができる。自分の育てている植物と身近な植物を比較しながら世話の仕方を選ぶ中で、植物が成長していることに気付くことができる。また、植物のたねを集めたり、栽培活動をまとめたりする中で、一つの種からたくさんの種を増やし、生命をつないでいることに気付くとともに、世話を続けられた自分の成長を実感することができる。栽培してきた植物に愛着を持つことができる。

##### (2) 児童観

本学級の児童は、男子3名、女子5名の計8名である。入学して1か月が経ち、学校生活に慣れつつある。しかし、まだまだ自分のことを自分で行うことが難しく、保護者や教員の手を借りて活動を行う姿が多く見られる。本単元では、児童が一人一つ自分の鉢を持ち、自分の力で栽培をする。世話を忘れれば植物が枯れ、毎日世話を続ければ開花したり実をつけたりするため、自分の行動の結果が植物の状態となって返ってくる。自分のことを自分で行う練習をしているこの時期に、大人の手を借りず、自分で育て上げる活動を行う意義は大きい。

##### (3) 指導観

本単元の指導に当たっては、まず朝顔の種を一人一人観察させ、これからの学習に興味・関心を持たせる。その際、見るだけではなく触ったりにおいをかいだりと五感を使わせることで多角的に種を観察し、「硬い種がどうやって育ち、花を咲かせるのか」という疑問に結び付くようにしたい。

次に、実際に一人一鉢朝顔を栽培させる。生活の時間だけでなく、朝自習や休み時間等も自由にアクセスできる環境を整え、植物の変化に気付けるようにしたい。定期的に観察カードに記録を残し、種からどんな変化をしているのか確認できるようにする。また、毎日の水やりを頑張っている姿を認めたり、植物に変化が見られたときに世話を続けることができたことを褒めたりすることで、その行動が植物の変化に繋がっていることに気付かせるとともに、世話をすることへの意欲を持たせたい。

そして、これまで記録したシートをもとに成長の過程をまとめることで、植物が種から発芽し、成長して花を咲かせ、また種子を残すという成長のサイクルに気付かせる。その上で、世話を続けなければ花を咲かせたり種子を残したりすることがなかったことや、毎日世話を続けることができた自分の成長を認められるようにしたい。

さらには、本校は木々に囲まれた環境にあるため、目の前の朝顔から学校に咲く植物へと目を向けさせ、自分が育てた朝顔と同じように水や栄養を得て生きていることに気付けるようにし、植物を大切にすることを育みたい。

#### (4) ESDとの関連

##### ①本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

- 相互性…植物は水・日光と密接な関係にあり、それらが不足すると正常に成長できなくなる
- 有限性…植物の成長の過程において、一つでも欠けてしまうと種子を残すことができなくなる
- 責任性…身の回りの自然を守っていくにはそこに住む自分たちの行動が大切である

##### ②本学習で育てたいESDの資質・能力

###### 【多面的・総合的に考える力（システム・シンキング）】

身の回りには花は、種子をスタートに様々な成長過程を経て花を咲かせていることに気付く。

###### 【コミュニケーションを行う力】

朝顔を成長させるために、どのような世話が必要なのか、意見交流を通して自分の考えを作り上げる。

###### 【進んで参加する態度】

自然を守るために自分にできることはないか考え、植物を大切にしようとする。

##### ③本学習で変容を促すESDの価値観

###### 【世代間の公正】

必要以上に花を摘んだり、樹木の枝や幹を折るなどして傷つけたりすると、今後入学してくる子どもたちが自然いっぱいの泗水西小学校で過ごすことができなくなる。

###### 【自然環境や生態系保全を重視する】

むやみやたらに花や草を取らず、自然に親しみをもち、守っていくことが大切である。

##### ④達成が期待されるSDGs

- 1 3 気候変動
- 1 5 陸域生態系の保護

#### 4. 単元の評価規準

(ア) 知識及び技能	(イ) 思考力・判断力・表現力	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
植物を継続的に栽培する活動を通して、植物は生命をもっていることや成長していることに気付いている。	植物を継続的に栽培する活動を通して、植物の育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけている。	植物を継続的に栽培する活動を通して、生き物への親しみをもち、大切にしようとする。

## 5. 単元の指導計画（全8時間）

学習活動	○学習への支援	評価・備考
<p>1 朝顔の種を観察し、今後の活動の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・真っ黒だ。</li> <li>・小さいけど硬いよ。</li> </ul>	<p>○五感を使い、種を観察させることで、多角的に種を捉えることができるようにし、発見や疑問を持たせながら、これからの学習に興味・関心が持てるようにする。</p>	<p>ウ(主体的)</p>
<p>2 1人一鉢朝顔を栽培する。</p> <p>①種をまく。</p> <p>②世話をする。</p> <p>毎朝の水やり 追肥 支柱立て</p> <p>③観察をする。</p> <p>発芽した様子 葉が増えた様子 つるが伸びた様子 開花した様子 実をつけた様子</p> <p>④種をとる。</p> <p>実の中にある種子を観察する。</p>	<p>○一人一つの鉢で育てることで、自分が世話をしなければならぬ責任感と自分のだけの朝顔という愛着を持てるようにする。</p> <p>○生活の時間だけでなく、朝自習や休み時間等も自由にアクセスできる環境を整え、植物の変化に気付けるようにする。</p> <p>○夏季休業中も自宅へ持ち帰らせ、責任もって世話を続けられるようにする。</p> <p>○定期的に観察カードに記録を残し、種からどんな変化をしているのか確認できるようにする。</p> <p>○世話を続けることができている姿を褒めることで、その行動が植物の変化に繋がっていることに気付かせるとともに、世話をすることへの意欲を持たせる。</p>	<p>ウ(主体的)</p> <p>イ(思判表)</p> <p>ア(知・技)</p>
<p>3 成長の過程をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・種から芽が出て、また最後は種になるんだな。</li> <li>・途中でお世話をしなかったら、花が咲かなかったんだな。</li> <li>・最後まで頑張ってお世話してよかったな。</li> </ul>	<p>○これまで記録したシートをもとに成長の過程をまとめることで、植物が種から発芽し、成長して花を咲かせ、また種子を残すという成長のサイクルに気付かせる。</p> <p>○世話を続けなければ花を咲かせたり種子を残したりすることがなかったことや、毎日世話を続けることができた自分の成長を認められるようにする。</p>	<p>ア(知・技)</p> <p>イ(思判表)</p> <p>ウ(主体的)</p>
<p>4 学校の自然を守るために自分にできることを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・花を取りすぎないようにしよう。</li> <li>・花壇にお水をあげようかな。</li> <li>・ごみ拾いをしてみよう。</li> <li>・実をとるときは優しくする。</li> </ul>	<p>○目の前の朝顔から学校に咲く植物へと目を向けさせ、自分が育てた朝顔と同じように水や栄養を得て生きていることに気付くことができるようにするとともに、学校の自然を大切にしようとする気持ちを持たせる。</p>	<p>ウ(主体的)</p>

## 6 成果（○）と課題（▲）

- 一人一鉢育てさせたことで、責任をもって植物を育てることができた。
- 成長の記録を継続して残したことで、その記録をもとに植物がどのように成長しているのか視覚的にとらえることができた。
- 本単元終了後、学級花壇に積極的に水やりを行う姿、1年生の花壇だけでなく他の学級や学校全体で栽培している花に水やりを行う姿が見られた。
- 本単元の学習後、来年度の入学式のために球根を植えた際に、翌日から水やりに必要なペットボトルを持参し、自発的に水やりを行う姿が見られ、本単元で学んだことを他の活動に生かそうとする様子があった。
- ▲まだまだ学校に咲いている花を大量に摘んでしまう児童がいる。取りすぎてはいけないということは理解しているが、自分の気持ちと折り合いをつけることは難しい様子であった。綺麗だから欲しいという気持ちは認めつつ、必要な量だけ摘むと花に優しくなれることを伝えていきたい。
- ▲夏休み中に水やりを怠って枯れてしまった児童がいた。そこから学ぶこともあると考えられるが、「きれいな花を咲かせたい」という子どもたちの思いを実現させるための手立てを考える必要がある。
- ▲きちんと世話をしたが種子ができなかった場合の対応も考えておく必要がある。